

浜中町、白糠町収蔵の考古資料について

石川 朗*

はじめに

釧路市埋蔵文化財調査センターは2018年4月現在、1,304,116点の考古資料を保管している。

これらは、発掘調査によるものを主体に釧路湿原(1971~1974年)、道東海岸線(1976~1980年)、阿寒川水系(1989~1992年)の各総合調査で収集したものなどが含まれる。集計作業は、現在も継続しており、最終的に1,500千点ほどになる見込みである。

一方、釧路管内の自治体では1960年代後半以降郷土資料室等の文化財の活用や保護の拠点が整備された。しかし、担当職員の世代交代などで資料そのものやバックデータの散逸が懸念される。

こうしたことから今回、考古資料について発掘報告書との照合作業など保管環境の整備を目的に再整理を行った。ここでは照合結果の概略について記録に留め、地域資料の確実な継承や資料検索の利便性向上を図る一助といたしたい。

冒頭ではあるが、浜中町教育委員会：大下智実氏、白糠町教育委員会：竹ヶ原浩司氏には資料の移送など色々と便宜を図って頂いた。関係機関の皆様のご理解、ご協力に心から感謝申し上げたい。

1. 浜中町の収蔵遺物(表1)

2017年3月に収蔵施設から資料を埋文センターに移送、同年8月に調査を終了した。資料は、周知の埋蔵文化財包蔵地17箇所とその他4件の出土遺物で、保管はA4デスクトレイ24箱、TS28コンテナ6箱、TS36コンテナ1箱に収めた。

浜中町の考古学的調査はこれまでに、姉別川7(霧多布高校 発行年不詳)、姉別川12、15(浜中町教育委員会1970)、ホロト沼(福士ほか1982)、姉別川17(福士ほか1983)遺跡の発掘が、1977年から1980年には町内遺跡分布調査がそれぞれ行われている(福士ほか1978、1979、1980、1981)。

それらに図示された遺物総数は278点があり、今回169点(60.8%)を照合した。遺跡別に、姉別川7:71点中48点、姉別川12及び15:50点中14点、姉別川17:15点全、姉別川流域堅穴群:36点中18点、ノコベリベツ川3:5点全、散布小中学校裏2:2点全、茶内ノコベリベツ川:2点全、熊谷:1点全、ホロト沼:57点中55点、小野牧場2:11点中5点、役場前:17点中4点を確認したが、散布小中学校裏1、ノコベリベツ川1、ホロト植林地内、梅原は照合不可であった。

表1 浜中町所蔵の考古資料一覧

	遺跡名	遺跡登録No.	実測・拓影図を掲載する報告書	時期など
発掘調査	姉別川12・15遺跡	M-04-21・24	1970「厚岸郡浜中町熊牛北部の堅穴の調査」浜中町教育委員会	擦、トビニタイ
	姉別川7遺跡	M-04-16	?「郷土研究」第2号 霧多布高校郷土史研究会	擦、トビニタイ
	ホロト沼遺跡	M-04-115	1982 福士廣志ほか「ホロト沼遺跡発掘調査報告」「浜中町文化財調査報告」I 浜中町教育委員会	縄前、アイヌ文化期
	姉別川17遺跡	M-04-26	1983 福士廣志ほか「姉別川17遺跡発掘調査報告」「浜中町文化財調査報告」II 浜中町教育委員会	擦、トビニタイ
	梅原遺跡	M-04-55	1980 福士廣志ほか「浜中町埋蔵文化財分布調査報告-第3次報告-」浜中町教育委員会	トビニタイ
	散布小中学校裏1遺跡	M-04-60	1980 福士廣志ほか「浜中町埋蔵文化財分布調査報告-第3次報告-」浜中町教育委員会	続縄(興津)
	役場前遺跡	M-04-116	1980 福士廣志ほか「浜中町埋蔵文化財分布調査報告-第3次報告-」浜中町教育委員会	縄晩(幣舞、緑ヶ岡)
	小野牧場2遺跡	M-04-57	1980 福士廣志ほか「浜中町埋蔵文化財分布調査報告-第3次報告-」浜中町教育委員会	続縄(後北C2D)
	ノコベリベツ川1遺跡	M-04-33	1980 福士廣志ほか「浜中町埋蔵文化財分布調査報告-第3次報告-」浜中町教育委員会	続縄(興津、後北C2D)
	熊谷遺跡	M-04-86	1980 福士廣志ほか「浜中町埋蔵文化財分布調査報告-第3次報告-」浜中町教育委員会	縄中~後(北筒)
	ノコベリベツ川3遺跡	M-04-35	1980 福士廣志ほか「浜中町埋蔵文化財分布調査報告-第3次報告-」浜中町教育委員会	縄中~後(北筒)
	散布小中学校裏2遺跡	M-04-61	1980 福士廣志ほか「浜中町埋蔵文化財分布調査報告-第3次報告-」浜中町教育委員会	縄
	ホロト植林地内遺跡	M-04-89	1980 福士廣志ほか「浜中町埋蔵文化財分布調査報告-第3次報告-」浜中町教育委員会	縄
	茶内ノコベリベツ川遺跡	M-04-8	1980 福士廣志ほか「浜中町埋蔵文化財分布調査報告-第3次報告-」浜中町教育委員会	縄
配布調査	(姉別川流域堅穴群)	-	1980 福士廣志ほか「浜中町埋蔵文化財分布調査報告-第3次報告-」浜中町教育委員会	擦、トビニタイ 姉別川5、7、12、15遺跡を含む
	霧多布貝塚	M-04-2	1978 福士廣志ほか「浜中町埋蔵文化財分布調査報告-第1次報告-」浜中町教育委員会	続縄(下田ノ沢) 1979年採集
	姉別川7遺跡	M-04-16	1978 福士廣志ほか「浜中町埋蔵文化財分布調査報告-第1次報告-」浜中町教育委員会	縄早(東釧路IV)・中~後(北筒)、トビニタイ 1977、1980年採集
	ノコベリベツ川3遺跡	M-04-35	1978 福士廣志ほか「浜中町埋蔵文化財分布調査報告-第1次報告-」浜中町教育委員会	縄早(東釧路III)・中~後(北筒)・晩(緑ヶ岡)、 続縄(後北C2D)
	ウラヤコタン貝塚	M-04-1	-	マレック、獣骨
	ウラヤコタン貝塚または湯沸貝塚	M-04-1or71	-	ウバガイ主体
	(姉別川流域堅穴群)	-	-	擦、トビニタイ、
	(役場浦山)	-	-	擦、トビニタイ、獣骨 1993年採集
	(出土地不明)	-	-	縄、擦、アイヌ文化期

* 釧路市埋蔵文化財調査センター

表2 白糠町所蔵の考古資料一覧 (上茶路遺跡〔財)道埋文センター2007〕は除く)

	遺跡名	遺跡登録No	実測・拓影図を掲載する報告書	時期など			
発掘調査	オンネチカップ遺跡	M-09-4	1966 澤四郎ほか「第1篇オンネチカップ(西庶路)遺跡調査報告」	縄晩(幣舞、緑ヶ岡)			
	河原遺跡	M-09-8	「第2篇河原遺跡調査報告」	続縄(後北C2D)			
	中茶路遺跡	M-09-6	「第3篇中茶路遺跡調査報告」	縄早(中茶路、中～後(北筒))			
	和天別河口遺跡	M-09-5	1968 富水慶一「第1編和天別河口堅穴住居址群遺跡調査報告(第1次)」	「北海道白糠町の先史文化」第2輯	縄晩(幣舞、緑ヶ岡)、擦、トビニタイ、アイヌ文化期		
			1969 富水慶一「和天別河口堅穴住居址群遺跡調査報告(第2次)」	「北海道白糠町の先史文化」第3輯			
	左股遺跡	M-09-7	1968 富水慶一「第2編左股遺跡調査報告」	「第3篇刺牛チャシコツ出土の遺物」	「北海道白糠町の先史文化」第2輯	白糠町教育委員会	縄前・中(?)
							続縄(後北C2D)、擦、アイヌ文化期
	サシウシチャシ跡	M-09-2					縄早(東釧路Ⅲ)・中～後(北筒)・後～晩初、晩(緑ヶ岡)、続縄(後北C2D-北大)、擦、トビニタイ、アイヌ文化期
	坂の丘1遺跡	M-09-15	1969 富水慶一「Ⅰ白糠町坂ノ岡遺跡調査報告」	「Ⅱ庶路神ノ沢のアイヌの物送り場」 「Ⅲ白糠町の遺跡概要2-(4)原半左衛門縁の地」 「Ⅳ 〃 2-(8)橋西遺跡」 「Ⅴ 〃 2-(9)西茶路遺跡」	アイヌ文化期、近代		
	神の沢	M-09-24			アイヌ文化期		
	原半左衛門縁の地遺跡	M-09-13			アイヌ文化期		
	橋西2遺跡	M-09-14			縄		
	橋西1遺跡	M-09-11			縄		
	太平遺跡	M-09-25			縄		
	(出土地不明)	-	-	-	縄・続縄・擦・アイヌ文化期		
採集など	橋西2遺跡	M-09-14	1972「白糠町橋西遺跡出土の石斧」	「Shirarika」6 白糠高校郷土研究部	縄		
	中茶路遺跡	M-09-6			縄中～後(北筒) 2007年工事立会		
	(坂の丘)	-	-	-	縄 1998年工事立会		
	(石炭岬)	-	-	-	和天別 1852-5		
	(白糠町公民館前)	-	1972「白糠町社会福祉センター前庭の出土物」	「Shirarika」6 白糠高校郷土研究部	縄		
	(白糠工業団地コイトイ地区)	-	1972「白糠工業団地コイトイ地区出土の遺物」	「Shirarika」6 白糠高校郷土研究部	続縄(後北C2D)		

資料の照合率はやや低いが、かつて報告されたように縄文早期後半からアイヌ文化期までの遺物を確認することができた(前掲1981)。なお、資料は諸般の事情により当分の間、釧路市埋蔵文化財調査センターで保管することとした。

2. 白糠町の収蔵遺物(表2)

2018年8月に白糠町郷土資料室から資料を移送、竹ヶ原氏が取り組まれていた照合作業を引き継いだ。年度内に台帳作成を終了し、返却する予定である。資料は、上茶路遺跡(道埋文センター2007)を除く周知の埋蔵文化財包蔵地12箇所とその他4件の出土遺物で、保管はA4デスクトレイ59箱、TS28コンテナ9箱に収めた。

白糠町では1965年から1968年に澤四郎(釧路市立郷土博物館)と富水慶一(白糠高校)を担当者として、オンネチカップ、河原、中茶路(以上、澤ほか1966)、和天別河口、左股(以上、富水1968、1969)、坂の丘1(富水1969)遺跡の発掘調査が行われており、それらが資料の主体をなす。

図示された遺物総数は837点があり、今回711点(84.9%)を照合した。遺跡別では、オンネチカップ：110点中89点、河原：36点中30点、中茶路：100点中31点、サシウシチャシ跡54点中41点、坂の丘1：173点中146点、神の沢：11点全、原半左

衛門縁の地：12点全、橋西1：3点全、太平9点中8点を確認したが、橋西2は照合不可であった(神の沢以後、富水1969)。地震による資料の散逸が懸念されたが、照合率は高く保管に大きな影響はなかったものと判断される。

3. 課題など

今回の調査で資料のバックデータ整備は、当初の目的を達成することができた。しかし、未照合遺物の搜索、土器復元や金属製品の保存処理などを含む本格的な再整理は今後の課題である。ところで、両町の資料には道東部でもユニークな内容が含まれている。白糠町和天別河口遺跡は、立地など道東海岸線における擦文集落の典型を示すものであり、鉄製品や鉄滓などの評価やほぼ同時期と考えられる幣舞2遺跡(石川編2005、2009)との対比など検討すべき項目は少なくない。また、浜中町姉別川流域の堅穴群遺跡は、トビニタイ土器の拡散やその経路を示唆している。近年では胎土分析からのアプローチも試みられている(中村ほか2019)。

博物館に集積されたモノ・コトは、地域を物語る無二の資産であり、それらの活用などについても関係機関との連携を深めてまいりたい。